

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270800305
法人名	有限会社 グループホーム・元気の家
事業所名	有限会社 グループホーム・元気の家
所在地	長崎県松浦市志佐町赤木免253番地 (電 話) 0956-72-3811
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成 20年 11月 12日

【情報提供票より】 (平成20年9月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 3月 1日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人				
職員数	10 人	常勤	6人,	非常勤	4人,	常勤換算	8.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	160 円	昼食	310 円
	夕食	310 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	880 円		

(4) 利用者の概要 ( 9月 23日現在 )

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	0 名	要介護2	5 名			
要介護3	2 名	要介護4	1 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84 歳	最低	59 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松浦市民病院、森歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「元気の家」という名のとおりに、笑い声に溢れたグループホームである。「ありがとう」とやってもらった事に対して、必ずお礼を言うように心がけており、人と人との関係を大事にしながら、運営者・職員・利用者が共に生活を送っている。築80年の民家を改造したグループホームであり、縁側・土間・土の庭という、利用者の生活に馴染んだ家となっている。周囲は自然が多い環境で、草木の花や空の色により季節の移り変わりを認識することができる。グループホームの畑で収穫した野菜や職員が山や海で採ってきた食材が食卓へ並び、味と会話を楽しみながら食卓を囲まれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の結果を受けて改善がなされており、運営推進会議に市職員の参加を呼びかけて今回実現した。また、災害時に備えて災害時非常持ち出し袋の設置がなされた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員会議を開き職員全員で取り組んでいる。会議を重ね現状のケアについての話し合いが行われた。以前から勤務している職員が多く、外部評価に積極的に取り組んでいる。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 現在は3ヶ月に1回のペースで運営推進会議が行われている。回数を重ねるごとにメンバーが増えており、直近で開催された会議には、市職員・民生委員・家族・利用者が出席している。今回、呼びかけを重ね、市職員の会議への参加が実現した。グループホームの状況の報告や年間計画の話し合いが行われている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の暮らしぶりを、面会に来られた際に話をするようにしている。面会が難しい方向けに、日々の生活を伝えられるようにHPを作成した。玄関に意見箱を設置したり、面会の際に話を聞き会話の中から思いをくみ取るようにしている。意見があった時は職員で話し合いを行い、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の運動会や祭り等の行事の際には見学に行っている。管理者や職員が草刈をしたり、利用者が散歩の途中で空き缶拾いをして地域清掃を通じて交流を深めている。また、よく野菜をいただいたりと近所の方との交流もある。今年グループホームで行われた夏祭りには80人の参加があり、運動会には家族、地域住民、職員の家族も参加し盛大に行われた。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からの理念を掲げている。この中の、「何事もオープンで、だれもが心やすく集まり、なごやかなホームにします。」は、グループホームが地域に溶け込みこみ、利用者が地域の中でともに生活できる事を大切に考え作られた理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼での唱和により、理念は職員に周知されている。地域との交流のため夏祭り等の行事を行っている。また、「自立支援」のため利用者が「自分からしよう」という思いを引き出すよう声かけ等を行うが、その日の体調や気分、精神状態を見ながら介助が必要か見極めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や祭り等の行事の際には見学に行っている。管理者や職員が草刈をしたり、利用者が散歩の途中で空き缶拾いをして交流を深めており、よく近所の方から野菜をいただいたりしている。今年グループホームで行われた夏祭りには80人の参加があり、運動会には家族、地域住民、職員の家族も参加し盛大に行われた。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員会議を開き職員全員で取り組んでいる。会議を重ね現状のケアについての話し合いが行われた。また、外部評価の結果を受けて改善がなされており、運営推進会議に市職員の参加が実現したり、災害時非常持ち出し袋の設置をした。以前から勤務している職員が多く、外部評価に積極的に取り組んでいる。		

(有)グループホーム・元気の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は3ヶ月に1回のペースで運営推進会議が行われている。回数を重ねるごとにメンバーが増えており、直近で開催された会議には、市職員・民生委員・家族・利用者が出席している。グループホームの状況の報告や年間計画の話し合いが行われた。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が市の地域密着型サービス推進委員を務めており、年2・3回の会議を通して話し合いをしている。運営推進会議への市職員の参加は直近の会議についてのみである。	○	会議の日程が合わないこともあるが、グループホームは地域に密着した存在であるので、地域の円滑な関係をつくるためにも、市役所とのより密接な関係づくりが期待される。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりを、面会時に話をするようにしている。面会が難しい家族向けに、日々の生活を伝えられるようにHPを作成した。また、月に1回以上は電話で報告をするようにしているが、変化があった時は随時連絡するようにしている。金銭出納帳は面会時に家族に提示し、確認後サインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会の際に話を聞いているが、あまり意見は出ていないので、会話の中で思いをくみ取るようにしている。家族の意見を取り入れて、できるだけ多くの家族がイベントに参加できるように、2回開催したり日程調整を行うなどしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少なく利用者と馴染みが深い。新規採用者には、勤務開始前に遊びにきてもらったり、管理者が食事に誘ってホームの様子を話して、早く馴染むように努めている。また、退職者が出ないように働きやすい環境作りを考えているが、職員の退職時には利用者に事情を説明し挨拶をしている。退職後もグループホームへ遊びにくる元職員も多い。		

(有)グループホーム・元気の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主任を1年毎の交代制にしている。全職員が主任を経験し、主任の仕事を理解することで協力する意識が高まった。県等の研修の案内があれば、職員のレベルに合わせて出来るだけ参加をするようにしている。資格受験の際には仕事のシフトを調整して受けやすい状況にしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ会議を通じて、管理者が情報交換を行っているが、グループホームのみの会議や交流会は少ない。他のグループホームの行事の時に職員がボランティアで手伝いをしている。職員の実習も受け入れているが、逆にこちらの職員の見学等を受け入れてくれるホームはない。	○	他のグループホームとの交流を強化することにより、職場内では解決できない悩みの糸口が見つかったり、また、緊急時の連携がスムーズに出来るので、地域全体としてのサービス向上につながる。また、遠方のグループホームとの交流があれば災害時に援助が可能となるので、これからの取り組みに期待する。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況によってはショートステイを体験してもらい、グループホームの雰囲気馴染んでからの入所となるようにしている。利用開始時の2・3日は管理者自らが利用者の居室で一緒に眠り、利用者の不安の解消に努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味付けや茶碗洗い等、やってもらった事に対して、必ずお礼を言うように心がけている。利用者との共同作業の中で昔からの風習・行事の意味ややり方を教えてもらったり、農作業について質問している。お互い協力しながら日常生活を過ごし、家族としてつきあっていく心構えを持っている。		

(有)グループホーム・元気の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で会話を重ねることにより、心の内を感じ取るようにしている。あまり意見を言われない方も、一対一になれば話してくれることが多いので、会話をするのを大事にしている。思うように言葉に出来ない方も、表情やしぐさの変化に注意し、気持ちを把握するようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランについて職員で話し合いを行い、これに基づいて介護計画を立てている。日常生活の中で利用者と家族の会話や電話応待の中から、本人と家族の意向をくみ取るように努力している。作成した介護計画書は家族へ説明をし、同意の署名・押印をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	約6ヶ月で見直しを行っている。介護計画が実行できているか毎日記録し確認をしている。モニタリングで合わない判断したときは1週間に変更したこともあった。また、状態が変化した時はその都度見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイを体験してもらい、グループホームの雰囲気馴染んでからの入所となるようにしている。利用者の要望に応じて買い物、お墓参り等の外出の支援を行っている。また、病院への送迎を行ったり、教会のミサに同行もしている。		

(有)グループホーム・元気の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関も確保しているが、基本として、以前からのかかりつけ医に継続して受診している。通院の際は職員が同行するようにしている。また、入院された際にはお見舞に行き様子を見て、洗濯物を持ち帰ったりしている。長期入院でも話し合いを行い状況次第では、再度グループホームへ戻るようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者の「助かる命なら医療にまかせて救ってほしい。」という考えのもと、ターミナルケアは行っていない。家族や主治医との話し合いを行い、医療機関への移転時期を決めている。退所しても病院へ面会に行き様子を見に行っており、退所後も関係は続いている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対して感謝の言葉をかけることを徹底しており、この気持ちが態度にも現れている。昼間はおむつは使用せず、利用者毎の排泄のサイクルを把握してさりげない誘導を行っていた。職員の守秘義務に関する誓約書は毎年もらっている。また、利用者の個人情報に関する同意書は入居時にもらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間割はなく、一人ひとりのペースを大事にしている。夜に眠れない方でも無理に寝かせないで、眠れない時は職員が隣で眠ったり、お茶を飲んだりして過ごしたりする。利用者の不安な心の中を理解するように努め、医師と相談しながら安定剤や睡眠薬の使用を減らすようにしている。		

(有)グループホーム・元気の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者に食べたいものを聞いて立てるので、その日のメニューが朝に決まることも多い。食材はグループホームの畑の野菜を中心に、海や山でとった食材を使うようにしている。利用者も皮むきや味付けの準備から茶碗の後片付けにBGMの音楽係まで行っている。笑い声の多い食卓であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日となっているが、希望があれば他の日や夜間の入浴にも対応している。入浴順で希望が重なるときは、ゲーム感覚でクジを引き順番を決めている。また、入浴を拒絶する方には職員や職員の子供と一緒に入るようにし、楽しい時間となるように心がけている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理や掃除、洗濯物たたみ等、それぞれの利用者に応じて役割をお願いしている。また、畑の作物の収穫や山菜採りに行き、食卓にあがる食事をみんなで楽しんでいる。また、カラオケや足浴、宗教関係の場所に出かけ、張りのある生活になるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑の中央に車椅子でも利用できる遊歩道を作り、散歩や収穫の際に利用している。また、行きつけの理美容院や、買い物に出かけている。車椅子でも乗車可能な電車の時間帯を調べ、お弁当を食べながら遠くへ出かけたこともある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず自由に出入りできるようになっている。また、見守りをきちんと行うために、職員同士での声かけを大切にしている。自分の行動を具体的に言うことにより、お互いの状態を把握できるようにしている。		

(有)グループホーム・元気の家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルを作成し、年4回の火災訓練を行っている。災害時非常持ち出し袋の準備やスプリンクラーの設置を行った。自動火災報知機は消防署の他に近隣住民へも通知するよう設定しているが、防災訓練への参加はない。また、自主点検表で火災が発生しないよう毎日チェックしている。	○	職員と利用者による火災訓練は行っているが、消防署や地域住民の参加はない。日頃より災害対策に関する理解を求め、実際に災害が起きた時に、確実な協力体制に基づいて対応していただくためにも、訓練の参加を呼びかけてもらうことを希望する。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェック表があり各人毎に摂取量を把握している。3時のお茶に何が飲みたいか希望をとり、楽しんで水分を摂取できるに心がけている。保健師の指導を受けたり、野菜中心の食事を心掛けるなど、栄養バランスに注意している。糖尿病の方は満腹感を感じられるように半分ずつ出すように工夫している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改造したグループホームで、大黒柱や縁側・土間等があり利用者が生活したであろう環境になっていた。各所に温度計・湿度計を設置し、空調管理をこまめにするようにしている。また、利用者と一緒に植えた花で玄関やテーブルを飾り、季節感を感じることができるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室が畳であり、昔からの生活に馴染んだ雰囲気となっている。利用者の好みや筋力を考慮しながら、布団を敷くかベッドを置いている。基本的に持込みとなっており、居室にはテレビや写真等が置いてあった。各居室には空調はないが、夏は窓を開けたり、冬は各自が持ち込んだ暖房器具で暖をとったりと自然の暮らしを大切にしている。		

※  は、重点項目。